法哲学演習　第４回ディベート

2009/01/26

担当：船本・今道

「大阪市は全ての市立中学校で習熟度別指導を導入すべきである」

肯定

① 憲法２６条１項の定めに応じた教育が行える

憲法２６条１項において「すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する」とある。そこで、習熟度別学習は「能力に応じてひとしく」行う教育の発展として考えられるべきである。したがって、平等主義と能力主義とを相容れないものとしてとらえ、習熟度別学習を能力主義による教育として批判するべきではない。能力を無視した画一的教育は、生徒一人ひとりの個性の発達にとってプラスに働かないばかりでなく、実質的平等が保障されなくなってしまう。

②「分かる」ことに対する生徒の満足感

文部科学省『平成１７年度義務教育に関する意識調査』によると、習熟度別学習になることで、「勉強がよく分かるようになった」の項目に、「そう思う」と答えた子どもは82.7%であった。「自分のペースで勉強ができる」「自分に合った授業を受けられるため勉強がよく分かる」といった意見が多く見られ、習熟度別学習は肯定的に捉えられていることが分かる。

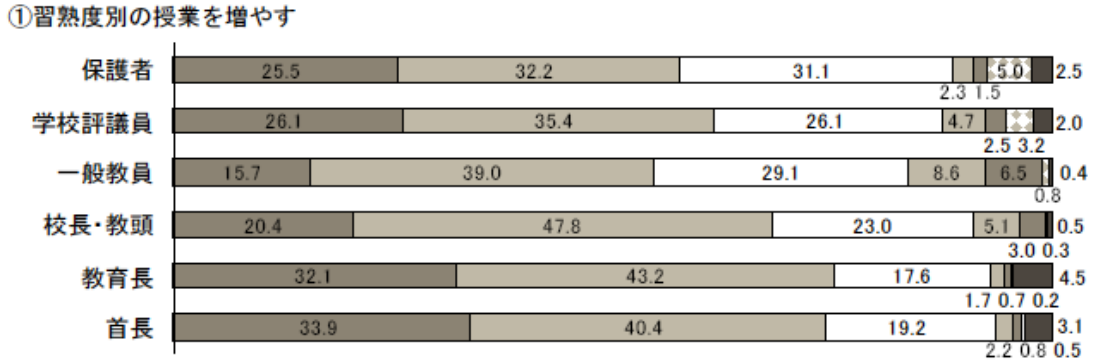
教育において重要なのは、「分かる」ということである。分からない勉強は子どもにとっても苦痛でしかない。下位の子どもが、分からないままで中学３年間を過ごすよりも、現在の自分の学力を知り、どこが分からないのか問題を明確にすることが大切である。自分に合ったレベルの授業を受けられることで理解が深まり、「分かる」という喜びやできる楽しさなどが実感できる。その満足感こそが学習に対する意欲を引き出すことにつながるのだ。

②　習熟度別指導の効果

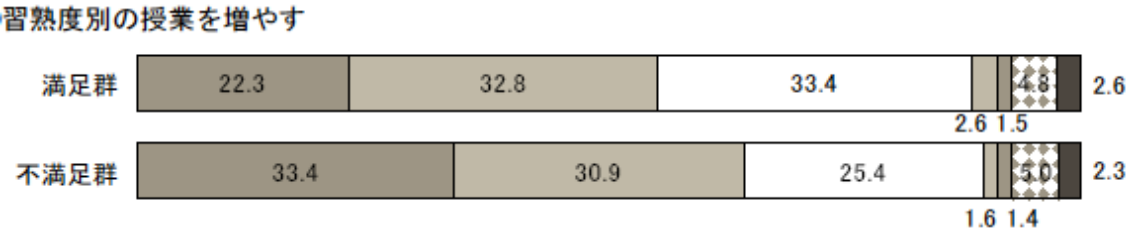
習熟度別学習をすることにより、高い学力にある子どもはさらに発展的な問題に取り組むことができ、また下位の子どもは基本的な問題を繰り返し復習することで基礎を固めることができる。実際に、文部科学省『平成１９年度全国学力・学習状況調査』の追加分析結果によると、下位のグループに対して、習熟度別指導による少人数指導を多く行った学校のほうが、行っていない学校よりも成績の低い生徒の割合が少ない傾向が見られた。また、習熟度の早いグループに対しても、発展的指導を多くの時間で行った学校ほど、行っていない学校よりも学力の高い生徒の割合が多い傾向がみられた。つまり、習熟度別学習はどちらのグループに対しても効果があるといえる。

【資料①】

(習熟度別学習を増やすべきだと考える割合)



(現在の習熟度別学習に対して満足、不満足の保護者それぞれが、今後習熟度別学習を増やすべきだと考えているかどうか)



☆左から順に、賛成、まあ賛成、どちらともいえない、まあ反対、反対、よく分からない、無回答・不明

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/17/11/05112502/houkoku.pdf

平成１６・１７年度文部科学省『義務教育に関する意識調査』

【資料②】

Ⅰ（習熟の遅いグループに対する少人数指導と平均正答数）

中学校	多くの時間で行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない
国語 A	30.33	30.29	30.22	30.23
国語 B	7.20	7.20	7.18	7.17
数学 A	26.02	25.80	25.64	25.83
数学 B	10.33	10.21	10.19	10.23

Ⅱ（習熟の早いグループに対する発展的指導と平均正答数）

中学校	多くの時間で行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない
国語 A	30.52	30.35	30.19	30.22
国語 B	7.31	7.24	7.16	7.16
数学 A	26.23	25.95	25.53	25.69
数学 B	10.43	10.30	10.10	10.16

☆　**国語 A・数学 A は主として知識の問題、国語 B・数学 B は主として活用に関する問題**

Ⅲ（習熟度別・少人数指導と学力層 D の割合）

中学校	多くの時間で行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない
国語	54.58 パーセント	55.30 パーセント	55.10 パーセント	57.18 パーセント
数学	52.44 パーセント	49.19 パーセント	53.12 パーセント	57.62 パーセント

Ⅳ（習熟度別・少人数指導と学力層 A の割合）

中学校	多くの時間で行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない
国語	51.74 パーセント	51.66 パーセント	46.89 パーセント	46.71 パーセント
数学	50.16 パーセント	46.32 パーセント	41.21 パーセント	43.88 パーセント

☆　**学力層 A は上位群、D は下位群を指す**

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/index.htm

文部科学省『平成１９年度全国学力・学習状況調査　追加分析結果』